

H29年度 指定管理者導入施設 管理運営評価シート（標準例）

1 評価対象施設の概要

施設名称	生駒山麓公園			
所在地	奈良県生駒市俵口町2088			
指定管理者名	モンベル・あおはに共同体	指定期間	開始日	平成 26 年 7 月 1 日
利用料金制適用区分	不適用		終了日	平成 36 年 6 月 30 日
選定方法	非公募	評価実施年	指定期間 10 年のうち 4 年目	
設置目的	金剛生駒紀泉国定公園の緑豊かな自然環境の中で、市民の休息、鑑賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供される市内有数の公園で、ふれあいセンター、野外活動センター、フィールドアスレチック、テニスコートなどを公園内に設置し、市民の福祉の増進と生活文化の向上に寄与することを目的としている。			
主な実施事業等	生駒山麓公園運営（指定管理＝公園部分、テニスコート。自主事業＝フィールドアスレチック、野外活動センター）、ふれあいセンター運営（指定管理＝温浴施設、研修室。自主事業＝レストラン、売店）、市民対象イベントの実施			

2 利用実績

利用区分等	単位	予定(計画・目標)	利用実績	対前年度比	増減の理由等
フィールドアスレチック	人		81,779	1.18	各種広告媒体による宣伝効果。リピーターの増加。
野外活動センター	人		55,407	1.34	日帰りBBQの受入定員を増やしたため。
ふれあいセンター研修室	人		16,407	0.94	
ふれあいセンター浴場	人		78,448	0.93	
テニス	人		25,461	1.01	

3 事業収支

(千円)

		事業計画	事業報告(実績)	(参考)前年度実績
収入計	A	273,722	275,191	275,129
指定管理料		170,122	170,122	171,246
利用料金収入	C			
自主事業収入		103,600	105,069	103,883
その他				
支出計	B	273,112	279,241	282,199
指定事業費		170,122	170,122	175,721
うち人件費	D	54,910	53,643	47,573
うち再委託料	E	54,367	53,745	56,154
自主事業費		102,990	109,119	106,478
事業収支	A-B	610	-4,050	-7,070
利用料金比率	C/A			
人件費比率	D/B	0.201	0.192	0.169
再委託費比率	E/B	0.199	0.192	0.199

補足説明（必要に応じて記入）

※人件費(D)及び再委託料(E)は主な支出内訳のため、DとEの合計額が指定事業費にはなりません。

4 利用者の意見把握状況

利用者の意見把握の実施の有無	有	実施方法	利用者アンケート・意見箱の設置・その他（ ）
実施結果	意見内容等		対応実績等
	①テニスコート進入路の道幅を広げて欲しい。 ②アスレチックにすべり止めスプレーまたは手袋が欲しい。 ③繁忙期に園路が渋滞して困る。		①進入路上に2箇所の待避所を設置した。 ②アスレチックにて軍手の販売を開始した。 ③繁忙期における園内駐車場の活用方法を見直し、是正した。

5 管理運営状況評価

施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	障がい者就労の拡大に向けて、従来業務の中で障がい者が作業可能な業務の選定を行い、可能なものから障がい者による作業へ移行した。業務選定にあたっては、現作業者から業務の質を落とさないことも重視し、市民が快適に利用できる施設機能を維持するよう努めた。花時計およびバスター内部の植栽業務に関しては、平成29年度より障がい者の就労の場とすることができた。
市の評価	「障がい者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができる雇用の場及び雇用のための訓練の場として生駒山麓公園を活用する」という施設管理の基本方針に基づき、当公園の特性に合致した運営体制を充実することができた。今後も同様に取組み、長期的な公園活性化に繋がるよう計画を進めること。
市民の平等な利用の確保（平等な利用への配慮、公平で適切な利用者の決定等）	
指定管理者による自己評価	基本協定書や関係法令等を遵守し、全ての利用者が同条件で施設を利用できるようにした。その上で、実態にそぐわない規則等については、市に対して改正の提案を行い、利用者がより公平で快適に利用できるよう努めた。
市の評価	基本協定書等を遵守しながら管理運営を進める中で、利用状況に応じて適宜市と協議し、適切な利用環境作りを行えた。今後は公園管理運営の現場を熟知する管理者として、規則等の変更後に生じる影響等も考慮した、より具体的な公園活性化に向けた提案を求める。
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	利用者アンケートの結果より、9割以上のお客様が施設に対して、“普通”あるいは“良い”という印象を持っており、満足度の高さがうかがわれる。お客様から寄せられた意見に対しては、費用負担が発生しないものは迅速に対応し、費用負担が発生するものは市と協議の上で対応を進めた。
市の評価	必要性を協議しながら、利用者からのご意見に対して対応を進めることができた。また、昨年同様の課題となるが、利用者からの評価として“良い”が増えるように業務取組方法を見直し、改善していくこと。
経費の縮減等の効果（効率性）	
経費の縮減等（経費縮減の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	社会一般の人件費の高騰に伴い、委託業者から契約金の値上げの交渉があったが、値上げをそのまま受け入れるのではなく、業者の再選定を行った。その結果、経費の上昇を最小限に抑えられることができた。加えて、施設営繕担当者の業務範囲を拡大し、従来外部へ委託していた木材加工の作業の多くを施設職員で実施することで、委託費の縮減に成功した。
市の評価	指定管理者職員による作業範囲を広げ、経費縮減に努めることができている。ただし、保守点検業務や修繕工事等の業者発注は、施設営繕担当者を中心に発注内容を精査の上行うこと。
収入の増加（収入増加の具体的な取組、効果等）	
指定管理者による自己評価	野外活動センターにおいて、平成28年度に居心地の良さを追及して席数を減らした結果、大きく収入が減少してしまった。平成29年においては、居心地の良さを損なわない程度に席数を増やし、収入の増加を果たすことができた。
市の評価	野外活動センターについては快適性を維持しながら増収することができた。ふれあいセンター等の他施設についても閑散期の利用促進策を検討し、収入増に努めること。
適正な施設の管理運営（適正性）	
施設の管理運営の状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）	
指定管理者による自己評価	従業員の能力と施設内各所の業務量を考慮し、業務がより効率的に行えるように業務分担の見直しをはかった。また、従来より施設の森林整備に尽力いただいている地域団体「いこま里山クラブ」との連携を強め、より細やかな森林整備がなされ、環境学習の場として市民へ提供できる範囲を拡大できた。
市の評価	地域の方々と連携しながら、利用者が自然環境と触れ合える機会を新たに創出することは公園の魅力増加に繋がるので、取組を継続すること。また、人員配置に関しては管理運営に必要な事務処理を、より迅速かつ適切に行えるよう配置の工夫と体制強化に努めること。

自主事業の取組（施設の有効活用による市民サービスの向上への効果等）	
指定管理者による自己評価	当日参加可能な体験プログラム「森のワークショップ」を冬季閑散期より開始し、土日祝に定期開催した。市民にアウトドア・アクティビティの体験や創作体験の場を提供するとともに、来園者増加につなげることができた。
市の評価	例年、冬季の閑散期は繁忙期と比べ利用者数が著しく少ないため、年間を通じて来園者数を獲得できるように取組を継続すること。
安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）	
指定管理者による自己評価	個人情報を含む書類は勤務終了後に金庫にて管理し、破棄する際にはシュレッダーを利用した。フィールドアスレチックの敷地内に、新たに非常呼び出しボタンを設置した。これにより、事故発生現場へのスタッフ到着時間の短縮が期待できる。加えて、危険度の高いフィールドアスレチック遊具を調査し、手がかり、足がかりなどを追加設置する改修を実施することで安全性を高め、事故の防止に努めた。
市の評価	近年、自然災害による被害が増えてきているため、随時、緊急時対応マニュアルを見直し改定すること。また、自然災害・事故発生時等は迅速に初期対応するとともに、遅滞なく市に連絡を入れること。申請書など個人情報を含む書類は厳重に管理し、その管理方法について職員間で共有しておくこと。また、フィールドアスレチックエリアの他にも危険性を軽減できる箇所について、適切な安全対策を講ずること。
サービスの安定的な提供（安定性）	
事業収支（自主事業を含む）の状況（事業収支の妥当性、安定的な事業継続等）	
指定管理者による自己評価	テニスコートにおいて、コート芝や照明器具等の改修に多くの費用を要する設備の老朽化が目立っている。財源の確保が改修工事実施の足かせになっているように思われるため、利用料金の値上げを行なうなどして、工事費用を捻出する努力が必要だと考える。野外活動センターにおいても設備投資の回収ができていないため、市と協議の上、利用料金の値上げを検討したい。
市の評価	財源に関わらず、利用者の安全やサービス向上に必要な改修工事は実施を検討すべきであり、各施設の現状を適宜市へ報告し、適宜改修を進めること。利用料金については山麓公園が市民福祉の増進等を目的として設置された施設であることに鑑み、近隣の施設等を参考にし、市と協議し、適正な料金を検討すること。
社会福祉施設に準じた評価	
施設の設置目的の達成（有効性）	
施設の目的や特性等に合致した管理運営（事業計画に則った管理運営、施設の有効活用による設置目的の達成等）	
指定管理者による自己評価	公園内整備等業務やレストラン業務、厨房内での調理業務また、アスレチック受付等を通じ、障害のある方それぞれの状況にあった福祉支援を提供している。これらの業務を通じて工賃を得ることで、働くことに対する意識を高めるとともに、積極的な社会生活が営める機会となっている。
市の評価	社会参加の促進に向け、利用者個々の状況にあわせた支援の実施が利用者の安定した生活につながっていることは評価している。今後も引き続き、きめ細やかな取り組みを行うとともに、生駒市民の利用者の増加にも力を入れてほしい。
利用者の満足度（利用者の意見把握結果による満足度の状況、意見等に対する取組状況、苦情等に対する対応等）	
指定管理者による自己評価	利用者個人がいきいきと活動し生活できるにとどまらず、保護者からも就労支援や福祉的な対応について満足の声をいただいている。また、各地域の特別支援学校や相談機関を通じ当事業所の利用希望を市外、県外からもいただいている状態である。
市の評価	県内特別支援学校への案内や体験の受け入れ等、利用者増加に向けての取り組みをすすめられていることは評価している。今後も引き続き、軽度から比較的重度の利用者まで幅広い就労支援サービスを提供できるよう一層の環境整備に努められたい。

適正な施設の管理運営（適正性）	
施設の管理運営の実施状況（適正な人員配置、従業員の能力・資質向上、広報活動、環境行動の取組状況、地域との連携等）	
指定管理者による自己評価	充実した福祉支援の提供のために、法定職員配置数以上の職員を配置し、きめ細やかな対応を心掛けている。また、職員の支援技術向上のために、外部研修や専門講師を招いた内部研修を積極的に行っている。地域との連携として、飲食提供品の一部に地元産の原料、加工品を使用したり、イベントを実施している。
市の評価	きめ細やかな対応のために、職員配置数の増加や研修等の充実を図っていることについては高く評価している。今後も引き続き、就労支援サービスの質の向上や、市内福祉事業所との連携を密にする等地域での支援体制の強化に努められたい。
安全管理、危機管理体制等（個人情報保護、事故発生時の対応、危機管理体制等）	
指定管理者による自己評価	福祉サービス利用者の個人情報に関しても、個人情報保護法に則った管理を徹底し、不備なく実施している。また、傷病等発生時について協力医療機関との連携や、対応マニュアルを整備している他、これらの記録や運用する職員研修など実施している。
市の評価	個人情報の取扱については、生駒市個人情報保護条例等の規定を遵守し、適切な管理を実施されていることは評価している。なお、事故発生時の対応や危機管理については、マニュアル整備に留まらず、定期的な訓練等を実施し、内容の評価・見直しを適宜行っていただきたい。

6 指定管理者の財務の状況

株式会社モンベル

非公表

社会福祉法人青葉仁会

(千円)

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
資産	3,867,263	4,004,695	4,265,557
流動資産	642,533	465,083	828,494
固定資産	3,224,730	3,539,612	3,437,063
負債	164,156	167,933	507,857
流動負債	164,156	167,933	507,857
固定負債			
純資産	3,703,108	3,836,765	3,757,700
資本金			
売上高	1,368,067	1,390,162	1,376,054
経常利益	264,782	201,108	-49,395

7 指定管理者の経営状況（財務・資産関係指標）

株式会社モンベル

非公表

社会福祉法人青葉仁会

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
自己資本比率 純資産/資産×100	95.8%	95.8%	88.1%
負債比率 (流動負債+固定負債)/純資産×100	4.4%	4.4%	13.5%
固定比率 固定資産/純資産×100	87.1%	92.3%	91.5%
流動比率 流動資産/流動負債×100	391.4%	276.9%	163.1%
固定長期適合率 固定資産/(純資産+固定負債)×100	87.1%	92.3%	91.5%
総資産回転率 売上高/資産×100	35.4%	34.7%	32.3%
総資産経常利益率 経常利益/資産×100	6.8%	5.0%	-1.2%

8 総合評価等（今後の業務改善に向けた考え方）

指定管理者による自己評価

野外活動センターについて、定員の増加と新規プログラムの実施により、利用人数を大幅に伸ばすことができた。更なる活性化に向けて新規設備の導入を行うと共に、安定した運営に向けて利用料金の値上げを実施したいと考えている。施設運営の目的の一つである障がい者就労の促進に関しては、植栽事業を柱として進行している。平成30年度以降は植栽に使用する花苗の育苗と植栽エリアの拡大を予定しており、障がい者就労のさらなる増加に向けて引き続き尽力していきたい。また、施設全体を通して、大規模設備の老朽化が顕著になっているため、市と協議の上、計画的に修繕を進めていきたい。

市の評価

生駒山麓公園の豊かな自然環境に触れ合う機会を新たに創出するために、障がい者就労の促進を進行しながら園内未活用区域の整備や新規事業を実施し、公園活性化に向けて計画を進めること。また、施設利用料金の設定については維持管理費の経費節減に努め、現状を維持すること。施設老朽化に関しては点検結果等を踏まえ、優先順位を設けて改修案を市に提示するなど、市と適宜協議しながら修繕を進めること。指定管理期間も中盤を迎えており、変化する環境や利用者ニーズに柔軟に対応できるよう、4年間の管理運営で得た経験を活かして業務に取り組むこと。